

資料 1

第3回 伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会 議事概要

開催日時	令和4年5月30日(月) 15時30分～17時00分
開催場所	伊丹市役所議会棟3階 議員総会室
出席者	青木委員、太田委員、直田委員、田爪委員、堤委員、細井委員、若本委員、和田委員
欠席者	なし
事務局	総合政策部長・総合政策部参事・施設マネジメント課長他
傍聴者	1名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 報告 (1) 第2回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会 議事概要3. 議題 (1) 公共施設再配置検討のための施設評価について (2) その他4. その他
資料	資料① 第2回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会 議事概要 資料② 第2回委員会における委員発言要旨及び今後の対応 資料③ 公共施設再配置検討のための施設評価について(案) 資料④ 「基本方針③」記載内容に係る修正案

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員総数 8 名の内 6 名が出席しており、本委員会が成立していることを確認 (2 名は遅れて参加) ・録音、写真撮影の確認 ・資料確認
	<p>2 報告(1) 第 2 回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会 議事概要 (事務局から、資料①及び②について説明)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネを考える上で、機器の導入ばかりクローズアップされているが、実は賢く使うという視点の方が重要である場合がよくある。ハードだけで楽に対応するのではなく、賢く使うというような視点も入れてはどうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用のマネジメント」という考えも評価に入れていく必要がある。
	<p>3 議題(1) 公共施設再配置検討のための施設評価について (事務局から、資料③について説明)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が本来実施すべき施策をしっかりとできているか、施設評価を行う上で考慮する必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施策通りに施設が運営されているかどうかという点は、非常に定性的であり評価が難しい。ここでの施設評価に係る視点は、結果としての利用者数やコスト等の指標を用いる事が適当ではないかと考えている。ご指摘の内容は、行政評価で捕捉していくことが出来ればと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価はしっかりとおさえておく必要がある。施設毎に目的が異なるため、一律に利用者数だけで評価するのは安易ではないかという懸念がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートを評価の一つに加えている自治体もある。他市の事例も参考にしながら、議論する必要があると考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価の視点は、根幹であると考えている。政策目標がどの程度達成されたのかを毎年度評価しており、目標に対して貢献度の高い施設であれば、必然的に更新・改修され、継続して使われるべきものとする。政策目標が達成されていない原因を究明していくため、この公共施設の再配置のための施設評価も活用しながら、どこに課題があるのかを分析していく。その考え方の部

	<p>分がこの記載の中にはないので、理解いただけるような説明が必要と感じる。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・政策に対するフィードバックをしっかりと続けてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料③P6のフローチャートで言えば、例えば公共性は高いが、他施設の受入の可能性や移転の可能性が低いという判断になれば、一番下の事業の改善・縮小を検討する契機になる。ここでどのような検討をするのかが非常に重要なポイントになってくる。行政評価の視点を含めてしっかりと検討していく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P8評価の視点において、効率性や福祉の観点と記載があるが、子供や高齢者の居場所作りも大切であり、公共施設に求められる役割も大きい。例えばサンシティホールでは趣味や娯楽というよりは、日常生活の中で少しでも刺激が得られる場所として利用されている方が多いように感じる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・フローの中では一般的な書き方になっているが、健康寿命の考え方もあり、実際そういう効果もあるという事を評価の視点として考慮いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回目の検討委員会の資料では、二次評価の後に他の計画や地域の実情を考慮と記載されていたが、今回の資料には記載がない。当然二次評価の後に考慮される内容であると理解して良いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り第2回検討委員会の資料では記載していたが、委員から評価の結果はぶれてはいけないと指摘をいただき、今回の資料では削除している。当然ながら、実行に移す際は他の計画や地域の実情、関連部署へのヒアリング等を実施した上で、進めていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・二次評価の中で、評価とシミュレーションが混ざっているように感じる。分類の①から⑤において、③の途中までは客観的な評価ができるが、それ以降はシミュレーションの世界ではないか。客観的な評価とシミュレーションを分けて記載してはどうか。シミュレーションの部分をしっかりと位置付けして、実際に市の計画として実施されるかどうか以前に、市として十分に施設の状況を把握するとか、どのような事業の可能性があるのかという点を押さえておくことは非常に重要だと考える。市がシミュレーションを実際行うとなると、その方針で決まったという誤解を招いたりする可能性があり、難しい部分があるかと思うが、様々なパターンを検討するべきだと考えている。二次評価のところを例えば「評価とシミュレーションによる可能性の検討」と記載できればより良いと感じた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはやってみるという「トライ&エラー」の考え方が大事。何か起きた時に

	<p>すぐに対応できるよう、常にあらゆる可能性をあらかじめ想定しておく必要があると考える。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・評価とシミュレーションが混ざっているというご指摘については、事務局としても改めてそのように感じた。シミュレーションの部分については、例えばサウンディング型市場調査等を通じて積極的に可能性の検討をしていくという点を記述できればと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な可能性を検討するなかで、思いがけない良いアイデアが出たりもする。また、国の補助金等が出た時にすぐに対応できるメリットもある。出来るだけ準備はしておいた方が良いという意味で、是非計画の中に位置付けしていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会において、財政事情との関係で公共施設の適切な量の調整は考え方の根本として必要。個別施設の計画で特定の分野を対象とした統廃合を一生懸命目指しても、10%の床面積縮減目標はなかなか進まない。多くの部署や民間の方々と共有できる合意形成手法として、この評価ツールは非常に重要な役割を果たせると考えている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・総量の減少は不可避である中、単なる量の減少ではなく評価ツールを使って、他の委員から指摘もあったソフト面についてもしっかりと考えた上で、効率の良い縮減につながれば、市民にご理解いただけるのではないかという意見。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討の経緯が見える化することが重要であると考えている。合意形成ツールとして上手く使用していきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは公共施設が優良資産と考えられていたが、今後保有するためのコストを考えた時に、不良資産化するケースもある。合意形成ツールを用いて市民に説明し、客観的に施設を減らしていけるような流れが望ましい。シェアリングやサブスクが広まりつつある時代であり、持つことのリスクを踏まえ、公共施設も必要な施設とそうでない施設をこのようなツールを使って検討していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者の視点も取り入れる事が大切。委員会や市民参加の場を作る等合意形成の仕組みをきちんと作って欲しい。 ・P8 評価の視点において、市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造するための施設とあるが、前向きな指標でありとても良いと感じる。公共施設マネジメントは、どんどん施設を減らしていくという意味でマイナスなイメージで捉えられがちだが、実際はそうではなく、市民の生活や暮らしを良くするた

	<p>めに必要であるといった表現を入れて欲しい。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 大きく分けて2つの意見。一つ目が行政だけで決めるのではなく、第三者、市民の意見を聴いたうえで決定していくことの重要性。二つ目が二次評価における評価の視点。定性的で難しい部分はあるが、ネガティブな視点ばかりではなく、前向きな視点をいれてはどうかという意見。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 第三者の視点を取り入れるべきという意見については、総合管理計画の7つの基本方針にある「市民参画による公共施設マネジメントの推進」にあたり、大前提として考えている。施設毎に市民との対話方法は異なると考えられるため、一つのやり方にとらわれず、柔軟に対応していく。 前向きな評価の視点については、偏った視点ではなく、広い意味での公共性を議論していくことが重要であると考えており、様々な視点によりマネジメントを推進していければと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設は義務的施設に分類され、どちらかと言えば空いている部屋をどう有効活用していくかという議論になると考える。地域のニーズに合った活用をしていければと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の通り、学校施設については受け入れを主として検討していければと考えている。体育館やプールの開放に留まらず、地域のニーズに合った部屋の開放についても教育委員会の担当部局と共有し、前向きに進めていけたらと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 学校によって特色はかなり異なるが、基本的には児童数は減少傾向にある。マンションの建設等により時期によっては急増する学校もあり、予測できない部分もあると思うが、施設の有効活用により児童と地域の交流が生まれ、成長に繋がっていくことを期待する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 人口動態はなかなか正確に予測できないため、将来の方向性がある程度確定するまでは、学校施設をすぐに廃止するのではなく、違う用途で利用する等して、将来柔軟に対応できるようにしておく方が望ましい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 二次評価の結果として事業の改善・縮小が必要となった施設については、この先の子供たちのためにも問題を先送りにせず、しっかり取り組んでいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事業の改善・縮小については、しっかり取り組んでいきたい。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2 の施設分類表には、市の重要な施設として斎場、駐車場、ごみ処理施設も記載しておくべきでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリーンランドについては豊中市と共同運営している関係で、総合管理計画から除外している。斎場と駐車場については追記する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一次評価におけるハード評価では、交通の利便性等土地の立地に関する評価も重要ではないか。今後の売却や譲渡の際、重要な要素になってくるため、評価項目として検討してはどうか。 ・ 安全性の観点から避難所指定についてはどのように考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば追記するのであれば、土地や立地が良ければ柔軟性も高まるという視点から、③の評価項目に「柔軟性」という評価を加え、「敷地や建物の面積に余剰があり施設の増改築等柔軟に対応できる」のようなイメージでどうか。交通の利便性を評価に採用する市もあるが、伊丹市の特徴として市バスがほぼ全域を網羅していることから、評価項目としていない。 ・ 避難所に関しては、伊丹市地域防災計画においてピーク時の避難者数の受入に伴い必要となる避難所面積を想定しており、仮に現在の伊丹市の避難所面積を 10%削減しても、必要面積を上回る状況であるため評価項目から除外している。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立地や避難所を評価に加えない点について、状況を把握し検討した上であえて加えていないというニュアンスを示せば良いと考える。次回までに検討してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回までに検討する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設では、受益者負担という視点で利用料や収益性という考え方を今後より強調していくべきと考える。施設使用料が見込める場合は、市の財政的な観点からも大きく評価できるのではないか。一次評価のソフト評価では、利用状況とコスト状況を評価項目としており、収支については書かれていない。例えば 2 次評価の分類③の評価項目「維持・継続性」に「収益性」を追加してはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次評価は分類と一次評価が終わった後の詳細検討にあたるため、ご指摘のとおりハード・ソフトの内容が再度ここに記載されることは良いと考える。次にご指摘の分類③は民間への移譲の可能性に関する記述となるため、分類①公共性の評価項目として検討したい。

<p>委員</p> <p>委員長</p> <p>事務局</p>	<p>(事務局から、資料④について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての施設が収益性を狙って建てられた訳ではない。また施設周辺での飲食や買い物等の波及効果も実際には発生する。コストが低いほうが高評価という言い方は、もう少し丁寧な表現に変えた方が良いのでは。 ・追記修正する際、事務局には可能な範囲で配慮いただきたい。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会：8月4日を予定。 ・本日の会議はこれで終了する。次回についても、万障繰り合わせの上ご出席いただきたい。 <p style="text-align: right;">以 上</p>
---------------------------------	--

以上のとおり、第3回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会議事録として確認します。

令和4年 月 日 委員 _____

令和4年 月 日 委員 _____